

海南古道まつり

第十四回「熊野・高野」短歌・俳句大会作品集

やまなみ参詣

春日風鈴まつり

。日時 令和元年八月一日

。場所 和歌山県海南市

「春日神社」にて作品発表

春日風鈴まつり

「短歌・俳句」表彰式次第

開催日：令和 元 年 8 月 1 日（木）

- I 邦楽演奏 13：00（拝殿にて）
・演奏と舞 海南文化協会邦楽研究部の演奏
つつてん踊り
- II 祭 典 式 13：30（拝殿にて）芸能上達・振興祈願祭
1. 修 ば つ
2. 祝辞奏上
3. 玉 串
- III 表 彰 式 14：00 頃（拝殿にて）※祭典終了後すぐに行います
・春日万葉の森歌垣大会 花畑重靖会長 あいさつ
・選者の先生方の紹介
・来賓紹介
・大賞作品の朗詠
・表彰 春日万葉の森歌垣大会 短歌・俳句
「熊野・高野」短歌・俳句大会

やまなみ集



選者のことば

桑島啓司

人は心や体を浄める為に神社仏閣を巡拝するのは、遠く神代の昔から行われていたようです。

当俳句大会は、取材範囲を熊野と高野に限定しているので、作句兼精神修行の場であると言っても過言ではないと思います。修行も単に句作りの行と言うよりも、俳句を通じて精神および肉体の修行と思うと当俳句大会に参加の意義が倍增するように思います。現に毎回応募して下さっている方々の作品に触れると心が浄められるのは厳然たる事実であります。

また、猛暑時の汗を流しながらの表彰式は他の表彰式では体験出来ない、肉体修行の一場面ではなからうかと思えます。

入賞されて猛暑のために、出席出来ない方はあまり無理をせずに欠席される事をお勧めします。欠席するのは非常に勇気のいる事と思いますが思い切って欠席して下さい。

後日、賞状と副賞を郵送いたします。また、表彰式のあとで舞・歌・器楽が奉納されていますが、実演者の額から汗が滴り落ちており、その姿にいつも心打たれております。



選者のことば

木下敦子

平成から令和へと改元された意義深い年、第十四回「熊野・高野」短歌・俳句大会が開催される事を慶びたい。平成三十年（二〇一八）紀伊半島南部で最初に咲く紅色の桜が新種とわかり「クマノザクラ」と命名された。国内の野生種としては一〇三年ぶりの発見という。これからも多くの人はこの優雅な桜に心癒されることであろう。私も近作をもって熊野・高野へ思いを馳せたく思います。

古座川のクマノザクラの華やげり 敦子

古座川は巨き一枚岩や桜の名所として有名。昨年、新種クマノザクラが発見され遠近からの花人で賑わった。古座川の清流には幾筋もの花筏が加わり平成最後の春は静かに過ぎてゆく。

風鈴の音を賞状に巻き込めり 敦子

当春日神社の拝殿に吊るされた数多の風鈴は神名備の風を受け涼やかな音色の中、「熊野・高野」の俳句表彰式が行なわれる。

受賞者は賞状に風鈴の音を然も巻き込むかのように筒状にしていた。

〔熊野〕大賞

神社本庁統理賞

和歌山県有田市 岸井 照代

遠足の子等の撫でゆく牛馬童子

和歌山県神社庁長賞

京都府福知山市 前崎とし江

本宮に万の鈴振る花馬酔木

〔熊野〕優秀賞

熊野本宮大社賞

和歌山県串本町 小島 素子

み熊野の一斉に立つ木々の芽よ

熊野速玉大社賞

和歌山県紀の川市 中島 紀生

山桜古道マラソン折り返す

熊野那智大社賞

埼玉県春日部市

櫻井 俊治

荒行の汗の染みたる窟かな

〔熊野〕松代王子賞

和歌山県岩出市

土江 祥元

熊野路に白の残照花すもも

和歌山県有田市

中谷 恭子

紀伊水道眼下に古道風光る

和歌山県海南市

梶本 博司

闇を切る夜振りの光牟婁の川

和歌山県海南市

澤 禎宣

静峡を下る奇岩の岩躑躅

千葉県佐倉市

小池 成功

滝落ちて忽ち星の騒めけり

〔熊野〕選者賞

桑島 啓司 選

埼玉県春日部市 櫻井 俊治

荒行の汗の染みたる窟かな

木下 敦子 選

和歌山県有田市 岸井 照代

遠足の子等の撫でゆく牛馬童子

〔高野〕大賞

神社本庁統理賞

和歌山県海南市 前田 長徳

源流は大師の山よ田水張る

和歌山県神社庁長賞

鳥取県米子市 岩水 節子

秋天を突き上げ高野杉の鉾

〈高野〉優秀賞

高野山金剛峯寺賞

和歌山県和歌山市

田嶋 節子

心経の声を一つに寒水行

丹生都比売神社賞

和歌山県かつらぎ町

野口 城

御詠歌に法師蟬和し高野山

丹生官省符神社賞

和歌山県和歌山市

武友 朋子

水打ちてはや売切れの胡麻豆腐

〈高野〉金剛院賞

接待の茶柱二本桜餅

大阪府泉佐野市

岡本炎弥子

和歌山県かつらぎ町 下村ツヤ子

彼岸会や無冠の考を讃へ合ふ

和歌山県有田市 上野山博子

上品の風に遍路の一息つき

和歌山県和歌山市 楠見恵美子

奥の院拝みてよりの夏期講習

和歌山県紀の川市 船木 栄子

雛僧や若葉の下で念珠揉み

〔高野〕選者賞

桑島 啓司 選
和歌山県海南市 前田 長徳

源流は大師の山よ田水張る

木下 敦子 選
鳥取県米子市 岩水 節子

高野より散華のごときうろこ雲

俳句

熊野

- 野口 城（和歌山県かつらぎ町）
- 1 海開き海ひとすぢの顔揃ひ
- 2 生国は紀州とありし遍路杖
- 3 山本千代子（和歌山県和歌山市）
- 3 王子碑をめざす深山路苔りんどう
- 4 幽玄の小雲取越遍路笠
- 亀井 洋（和歌山県新宮市）
- 5 一の滝那智連山を守りける
- 6 春立つや那智山麓の艶めきし
- 7 船釣や那智山遠くなりけり
- 8 釣りし河豚鳴いて膨れし白き腹
- 前崎とし江（京都府福知山市）
- 9 熊野路に草より低き野の地蔵
- 10 小鳥来る大門坂の夫婦杉
- 11 走り根も熊野詣での遍路道
- 12 本宮に万の鈴振る花馬酔木
- 岸井 照代（和歌山県有田市）
- 13 熊野路の神の山にも猪のゐて
- 14 遠足の子等の撫でゆく牛馬童子
- 15 杉花粉纏ひ熊野をツーリング
- 16 緋袴を巫女の払へる杉花粉
- 横白 清二（和歌山県和歌山市）
- 17 建国の神話を内に青熊野
- 18 悠久の刻み畏し那智の瀧
- 板敷 清光（大阪府泉南市）
- 19 風死して怒濤捲き込む熊野灘
- 20 水神の仁王立ちせし那智の滝
- 櫻井 俊治（埼玉県春日部市）
- 21 荒行の汗の染みたる窟かな
- 22 白拍子舞ひて王子の涼しかり
- 小島 素子（和歌山県串本町）
- 23 葺替への青岸渡寺のみ空かな
- 24 み熊野の一斉に立つ木々の芽よ
- 御前 弘子（和歌山県和歌山市）
- 25 一椀の中に宇宙と熊野は夏
- 26 雲海に出合へ中辺路神の山
- 土江 祥元（和歌山県岩出市）
- 27 梅が香や王子を巡る熊野みち

- 28 熊野路に白の残照花すもも
中谷 恭子（和歌山県有田市）
- 29 紀伊水道眼下に古道風光る
篠笛に送られ長閑参詣舟
前田 長徳（和歌山県海南市）
- 30 一瀑を拝むみくまの山始め
澎湃と芽吹く熊野や夜明空
太古より山霊鎮め那智の瀧
大鷹の傾ぐ山河や熊野灘
梶本 洋子（和歌山県岩出市）
- 31 老鷺や天に入りゆく熊野径
熊野川澄みて平らに石を越す
梶本 博司（和歌山県海南市）
- 32 闇を切る夜振りの光牟婁の川
鮎食らう遊びし川の匂いして
初潮や柱状節理波の盾
ひかり茸漆黒の闇に命あり
澤 禎宣（和歌山県海南市）
- 33 龍天に登る熊野の大鳥居
瀨峡を下る奇岩の岩躑躅
玉井 瑞穂（和歌山県田辺市）
- 34 万緑やその先に真帆高野坂
小池 成功（千葉県佐倉市）
- 35 滝落ちて忽ち星の騒めけり
- 44 幾度も拭ふ発汗熊野道
椋本 望生（大阪府堺市）
- 45 走り根の怒り踏みゆく生身魂
古道ゆく平安朝の薫風と
中島 紀生（和歌山県紀の川市）
- 46 山桜古道マラソン折り返す
春霞古道の羊歯の露まろし
岩瀬 守（山形県上山市）
- 47 先人の足音聴けり春古道
しんしんと歴史刻む春熊野
吾 亦 紅（大分県国東市）
- 48 笹百合や式部をろがむ供養塔
真清水や水吞王子古道入る
嶋 良二（愛知県日進市）
- 49 燕め青岸渡寺を間借せり
百雷の落ちてこの身的那智の滝
木幡 嘉子（福井県あわら市）
- 50 春光や絵馬に願いの熊野筆
神の瀧ガイドは手話で語りけり
福岡 悟（福井県あわら市）
- 51 海南の地から踏み出づ遍路かな
今まさに鷹鳩化する王子道
- 52

俳句

— 高野 —

- 1 万緑や古道詣での杉襖 木幡 嘉子（福井県あわら市）
- 2 石畳踏む参道の蟬しぐれ 満田 三椒（和歌山県紀の川市）
- 3 啓蟄や石庭に龍動き出す 花吹雪屋根に大きな防火樽 長谷 史談（和歌山県紀の川市）
- 4 花吹雪屋根に大きな防火樽
- 5 萬霊に雪の使者舞ふ奥の院 奥高野寂寞として桜の芽 野口 城（和歌山県かつらぎ町）
- 6 奥高野寂寞として桜の芽
- 7 余生とは自由と孤独花万朶 御詠歌に法師蟬和し高野山 中村 正志（和歌山県和歌山市）
- 8 御詠歌に法師蟬和し高野山
- 9 お彼岸や廊に漏れ来る南無の経 名将の霊碑止まり木春の鳥 山本千代子（和歌山県和歌山市）
- 10 名将の霊碑止まり木春の鳥
- 11 青天を受く朴の花高野辞す
- 12 聖山の雲もかきいろ柿の里 武友 朋子（和歌山県和歌山市）
- 13 武将らの墓も倒して台風過 水打ちてはや売切れの胡麻豆腐 岡本炎弥子（大阪府泉佐野市）
- 14 水打ちてはや売切れの胡麻豆腐
- 15 風くせのありて高野に桜満つ 接待の茶柱二本桜餅 岩水 節子（鳥取県米子市）
- 16 風くせのありて高野に桜満つ
- 17 高野行く恋の二人のサングラス 秋天を突き上げ高野杉の鉾 導ける女人の魂か黒揚羽 今はなき女人禁制道をしへ 高野より散華のごときうろこ雲 蚊に刺されこれより高野人となる 新井たか志（神奈川県足柄上郡）
- 18 高野行く恋の二人のサングラス
- 19 秋天を突き上げ高野杉の鉾
- 20 導ける女人の魂か黒揚羽
- 21 今はなき女人禁制道をしへ
- 22 高野より散華のごときうろこ雲
- 23 蚊に刺されこれより高野人となる
- 24 皮剥の檜丸太や青山中 護摩堂の炎の氣勢ひ若葉雨

- 25 大師の膳運べる僧や春高野
 26 彼岸会や無冠の考を讃へ合ふ
 27 手摺持ち渡る反り橋花ふぶき
 28 乳型の絵馬の光りて寺の春
 29 花祭り祖母は高野を語り継ぐ
 30 春高野導べを下さい大師さま
 31 上品の風に遍路の一息つき
 32 ケーブルは塔の丹の色雪高野
 33 花咲きて喜寿にて詣る奥の院
 34 一町石歩き通して若葉風
 35 白蝶の僧の前へと後ろへと
 36 春光やケーブルカーに弾む声
 37 女人結界紛れ来る蚊をたたく
 38 もののふの苔むす墓石皆涼し
 下村ツヤ子（和歌山県かつらぎ町）
 太田 妙子（和歌山県和歌山市）
 寒川 靖子（香川県丸亀市）
 上野山博子（和歌山県有田市）
 御前 弘子（和歌山県和歌山市）
 津田 京子（和歌山県和歌山市）
 板敷 清光（大阪府泉南市）
 土江 祥元（和歌山県岩出市）
 39 はつなつやつむり美し若き僧
 40 合掌の頭に淡雪や奥御廟
 41 源流は大師の山よ田水張る
 42 往昔の万余の墓や冬銀河
 43 滴りやトンネル多き高野線
 44 石楠花や祈りの長き大師廟
 45 春空に高く積み上げ無縁塚
 46 心経の声を一つに寒水行
 47 奥の院拝みてよりの夏期講習
 48 高野へと新ケーブルや風光る
 49 乗り継ぎ待つ目の癒されて柿若葉
 50 乗り合はす人の行く手も青葉祭
 51 西行の愛でし高野の遅桜
 52 百坊をめぐり高野の余花に会ふ
 53 老い杉に短調の響き虎落笛
 前田 長徳（和歌山県海南市）
 田嶋 節子（和歌山県和歌山市）
 梶本 洋子（和歌山県岩出市）
 梶本 博司（和歌山県海南市）

- 54 杉若葉巨木は無常を受け入れず
 55 入道雲山越え弥陀の刹那かな
 56 雪高野白き心の教えかな
 澤 禎宣 (和歌山県海南市)
 57 青い眼が芹粥啜る坊の朝
 58 寒垢離の異国の僧の仁王面
 石原 諭 (岐阜県美濃市)
 59 散る花を見上げし先の白き月
 60 ウグイスのかろき鳴き声高野道
 玉井 瑞穂 (和歌山県田辺市)
 61 天空に滅罪浄化雉子の声
 小池 成功 (千葉県佐倉市)
 62 花吹雪世の安寧に大師像
 63 薫風や高野二夜の坊泊り
 棕本 望生 (大阪府堺市)
 64 町石や佇ちて汗拭く三万歩
 65 松蟬や杉の太きを二人して
 中島 紀生 (和歌山県紀の川市)
 66 苔生せる芭蕉の句碑への雉の声
 67 桜まじ高野四郎の声乗せて

- 68 凍み豆腐軒にぶらりと風を待つ
 嶋 良二 (愛知県日進市)
 69 秋霖や人待ち顔の女人堂
 林 昌子 (福岡県大牟田市)
 70 香煙を御廟へ誘ふ春の風
 へだてなく桜薬降るたかのやま
 折阪 真美 (和歌山県紀の川市)
 72 春霞子鹿草食む高野道
 73 教会の五色幕にも春嵐
 船木 栄子 (和歌山県紀の川市)
 74 雛僧や若葉の下で念珠揉み
 75 俗離れ青葉祭の高野山
 福岡 悟 (東京都八王子市)
 76 夏高野六根清浄堪へて説く
 77 雲井なる八月十五日高野佇つ



参 詣 集



選者のことば

水 本 光

海南市春日神社主催の世界遺産「熊野・高野」の短歌大会に、多くの詠草を寄せていただきありがとうございました。

今回も歌の場面を思い浮かべながら、感動しつつ学ばせていただきました。そして、日本の伝統的な文芸である短歌には、新しいものを受け入れつつ、古きものを尊ぶ精神が息づいていることを強く感じるものが出来ました。

作者の深い思いが込められた、この「やまなみ参詣」集が、今幼児である孫子からも顧みられ、後世に伝えられる紀州和歌山の大きな文化財産であると思います。

さびさびと熊野の山の杉古木うれに声する八咫烏かも

まどろめば時代のけぢめもあらなくに杉の古木の軋む音する

若き日の熊野の旅で、八咫烏の神話を話す翁と出会い、熊野の杜の「古代」を夢想できた幸運を思い出しつつ、皆様方のご健康とご健詠を心から願っています。



選者のことば

杉谷睦生

多くの方の「熊野・高野」の短歌に触れ、私の記憶の中から様々なシーンが浮かんで来ました。熊野古道の部分、部分を歩いたこと、高野の宿坊での精進料理をいただいた時のこと、護摩壇山の雄大な景色に見とれた時の事などありありと思いつかんで来ました。

海からの花火があがりこがす空月も見ている熊野絵巻を

これは、熊野の浜で花火を見て感動した時の私の短歌です。

さて参加者のみなさんの短歌から熊野・高野を大切に思う熱い気持ちを、ひしひしと感じ、とても嬉しく思いました。これからも和歌山が誇る熊野・高野を「風鈴まつり」を機会として、みなさんと共に、しっかりと短歌に詠んでいきたいと強く思いました。

今日も又ひなたぼつこの軀あり空見ていつも笑みたたえいる
赤きらいピンクがいいと孫が言う信号待ちのいつもの主張

〈熊野〉大賞

神社本庁統理賞

和歌山県海南市 倉本 郁子

蒼茫とかさなる果無山脈を神さびわたる夏ぐもの影

和歌山県神社庁長賞

福岡県大牟田市 林 昌子

那智の滝わが誦す経の声碎き萬珠の沫の壺に沸き立つ

〈熊野〉優秀賞

熊野本宮大社賞

和歌山県和歌山市 埴岡佳津子

熊野路の空にふわりと春の雲恵比寿顔なり餅売る媼

熊野速玉大社賞

和歌山県岩出市 梶本 洋子

熊野川の瀨の深さはしらねども底なきもののごとき真蒼さ

熊野那智大社賞

静岡県浜松市 河田 琴栄

夾侍には杉の木立を従へて那智の御滝は清けく光る

〔熊野〕松代王子賞

和歌山県白浜町 庵戸眞知子

苔むせる石畳踏み登りつついにしえの世の姫巫女になる

兵庫県西脇市 大江 美典

熊野路に楚々と揺れたり笹百合は少女のやうに小首傾げて

和歌山県白浜町 木下 正博

大辺路の風はひたいの汗をふき版築の道に塩飴あまし

和歌山県和歌山市 野入 博史

闇を裂き火の滝駈ける下り竜新宮節は男の勇み

和歌山県かつらぎ町 木村いく子

麗しき光よ風よ「クマノザクラ」新種めでたく三山染める

和歌山県田辺市 辻本 順子

渡海せむ僧の苦悩は茫として古道に見る海果てまでま青

〈熊野〉選者賞

水本 光 選

和歌山県海南市 倉本 郁子

蒼茫とかさなる果無山脈を神さびわたる夏ぐもの影

杉谷 睦生 選

和歌山県和歌山市 埴岡佳津子

熊野路の空にふわりと春の雲恵比寿顔なり餅売る媼

〈高野〉大賞

神社本庁統理賞

和歌山県橋本市 浦木 逸子

青葉闇ぬけて明るき初夏の高野の空がわつと現はる

和歌山県神社庁長賞

和歌山県海南市 宮崎トシミ

墓石群めぐるグループ四組の四か国語の響き合いゆく

〈高野〉優秀賞

高野山金剛峯寺賞

和歌山県和歌山市 中尾 加代

嬉しいな高野豆腐がふつくと煮えて母にも届けたくなる

丹生都比売神社賞

和歌山県海南市 妻木伊佐子

雨あがり高野の裾野に日のさして垂るる稲穂がまぶしく光る

丹生官省符神社賞

和歌山県橋本市 松山 康子

西行の庵に寄り添ふ妻子塚天野の里に永久に息衝く

〔高野〕金剛院賞

大阪府泉佐野市 岡本炎弥子

身を少し寄せ雲水に道ゆずる昏き高野の時雨るる中を

和歌山県湯浅町 兵野 勉

真つ白な雪を見せ度く六歳の長男連れて高野山へと

和歌山県海南市 杉本 静子

薄墨の杉木立より新月は明かりくれたり高野のたそがれ

和歌山県海南市 森田瑠璃子

禁解かれ観光バスの着く山を彼の石童丸に知らせたし

大阪府茨木市 吉田 美子

真夜覚めて高野の月を仰ぎみる大師もご覧かこの青き月

和歌山県和歌山市 松田 容典

赤衣を纏い隊列読経する高野の僧の頭光れり

〔高野〕選者賞

水本 光 選

和歌山県橋本市 松山 康子

西行の庵に寄り添ふ妻子塚天野の里に永久に息衝く

杉谷 睦生 選

和歌山県海南市 森田瑠璃子

禁解かれ観光バスの着く山を彼の石童丸に知らせたし

短歌

— 熊野 —

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
古希になり再び熊野に詣でむと夫と息子の後ひたすら歩く
黙々と歩く背中が語り出すこの坂越すと下り坂なり
苔むせる石畳踏み登りつついにしえの世の姫巫女になる
むき出した大木の根を踏みしめて古道の道は果てなく続く
囀りが徐々にはっきり聞こえる牛馬童子の柔和な笑顔
不寝王子路傍の石仏ひっそりと静かな顔で我を仰うる
菅笠を奈久地王子の祠にも供え祠りし優しき心
古道沿い王子社廻る人の群歴史にふれて盛衰知りぬ
藤白の峠登りて地藏寺は今もひっそり参詣を待つ
呼び上げの地藏輝やき津波より逃げ場教えて人助けせし
熊野路に楚々と揺れたり笹百合は少女のやうに小首傾げて
石畳はしたたる汗に色を変へみどりの風の過ぎゆくを待つ
英国の春の寒さにうつむける房の小桜熊野路に咲く
汗ふきて熊野ふる道共に行きし作曲の師よ瀧に偲ばる
月と星の明るさ競う石畳に黒き影落とす眠れる杉が
あまた年かく在り経つつ大門の杉の大樹は天を侵さず
たたなずく熊野三千六百峰護摩壇山の眺望に酔う
蒼茫とかさなる果無山脈を神さびわたる夏ぐもの影
軒下に吊す「うどん」の布褪せて湯の峯の里春近づきぬ
熊野路の空にふわりと春の雲恵比寿顔なり餅売る媼

庵戸眞知子（和歌山県白浜町）

橋本 吉信（和歌山県海南市）

大江 美典（兵庫県西脇市）

尾崎 元昭（和歌山県和歌山市）

瀬戸内 光（山口県光市）

倉本 郁子（和歌山県海南市）

埴岡佳津子（和歌山県和歌山市）

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21

霊峰の滝なる那智の水真白災害時の魂鎮めひた落つ
 先がけて咲くこの樹々は里びとの「熊野桜」と言へり眺めつ
 前鬼駈け後鬼追ひゆく奥駈けに靈氣しんしんと鈴の音を呼ぶ
 茂吉ゆき文明が尋ねし熊野路の清水を汲みて渴きを癒す
 市街地を通り抜きたるわが湯浅熊野詣の要衝なりき
 紀伊の山越へて癒しの本宮へ熊野の森はいつにやさしく
 ぐらぐらと夏の雲わく雲取の風はごちそう汗はしたたり
 大辺路の風はひたいの汗をふき版築の道に塩飴あまし
 一方杉何を念ひて熊野向くエンゼルのごと吾に羽生えむか
 その昔癒しのくにへ蟻のごと熊野詣は今もかはらず
 古き世の女人は命賭し歩む熊野古道に金髪「ハーイ」
 闇を裂き火の滝駈ける下り竜新宮節は男の勇み
 信仰の古道を行けば宗教と無縁に生き来し身に迫るもの
 ニンゲンを捨てたく熊野の石畳秋の深きへ独り分け入る
 吉野山の桜に絵心拾いきてピンクの絵の具ひとつ買ひ足す
 降りやみて杉の香高き洞川の宿の夕餉の虹鱈の膳
 あかあかと杉の丸太が埋め尽くしもう夏近き上市の木場
 藤白の御坂喘ぎつまた一步峰に地蔵の呼ぶを頼りに
 長く延ぶ王子ヶ浜も半ば来て波音聞きつつ夫と昼とる
 山深く入り来て見張る那智の滝光の束を空に掛けたり
 熊野川の瀬の深さはしらねども底なきもののごとき真蒼さ
 夾侍には杉の木立を従へて那智の御滝は清けく光る
 夏木立古道ゆく影絶えぬれば熊野の灘の潮騒ばかり
 麗しき光よ風よ「クマノザクラ」新種めでたく三山染める

高岡 淳子（和歌山県和歌山市）
 森元 輝彦（山口県周南市）
 兵野 勉（和歌山県湯浅町）
 木下 正博（和歌山県白浜町）
 杉本 静子（和歌山県海南市）
 野入 博史（和歌山県和歌山市）
 木下 晴生（京都府京都市）
 利長さだお（山口県光市）
 清水 良郎（愛知県名古屋市中区）
 川久保早苗（和歌山県和歌山市）
 梶本 洋子（和歌山県岩出市）
 河田 琴栄（静岡県浜松市）
 木村いく子（和歌山県かつらぎ町）

65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45

露かをる熊野古道を一步づつ奥へ奥へと補陀落浄土
雨しぶき海鳴りあした神々の大音声はみ熊野に満つ
渡海せむ僧の苦悩は茫として古道に見る海果てまでま青
鬱蒼たる熊野古道のフイトンチッド心にしんしん完歩し得たり
石の段木の根の道の一步ごと無になりゆくか熊野古道は
笑みうかべわらべ走らむ鬼ヶ城光かがやく海ながめてる
山さけぶ春を感じるこのよき日峠をこえてわれの地につく
熊野古道自然の空を目に受けて太古から成る長き道かな
貝の宝それを手にしたよろこびを峠へおいて風と旅する
つば湯にて体清めて散策す熊野古道は夜の秋なり
貝殻の風鈴の音かオオヤンマ熊野古道の宙に何う
熊野権現言い伝え信不信貴賤を問わず不浄も嫌わず
石畳妻と手を取り緑陰の熊野古道のウォークコース
九年前かるく上りし大門坂杖つき巡る喜寿の祝いに
「ストライク」アンパイヤーの声聞こゆ拍手をおくるスマホの孫に
那智の滝わが誦す経の声碎き萬珠の沫の壺に沸き立つ
訪ね来し青岸渡寺の観音に二十歳で逝きし母を恋しき
満を持し行きつ戻りつ熊野路に立つを見すてて身を任せたり
つれづれに今旅に出よ思索せよそこはかとなく風やとくらむ
土を踏み風に聞き行き人に遇い熊野古道に昔を偲ぶ
山並に幾重の雲のたなびきて熊野古道は遙かその下

辻本 順子（和歌山県田辺市）

大沼二三枝（山形県鶴岡市）

安田 紫（兵庫県宝塚市）

六月朔日光（福岡県福岡市）

原 ひろし（大分県国東市）

上田 康彦（千葉県四街道市）

林 昌子（福岡県大牟田市）

福岡 悟（東京都八王子市）

松田 容典（和歌山県和歌山市）

短歌

— 高野 —

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

西行の庵に寄り添ふ妻子塚天野の里に永久に息衝く
朗朗と声明響き霊山に生きたし生ける物に染み入る
托鉢の青年僧の悴みし手に錫杖の健気に振りぬ
風雨にも消へる事なき燈明は未来を照らす衆生の命
石塔婆導かれつつ大門に近付く程に我の小さき
霊山へ町石道をひた登るいにしへ人の鼓動聴く為
千歳越え御大師様の御心に深く抱かれ無事を祈りぬ
高野山大師の御坐す奥の院敷石づたいに雪融け残る
すれ違ふ一人遍路に会釈して我も結願あしび咲く日に
身を少し寄せ雲水に道ゆずる昏き高野の時雨るる中を
五十年を経て再訪の高野山数多の墓碑に心締め
五十年を経て再訪の高野山青春の夢今蘇る
嬉しいな高野豆腐がふつくと煮えて母にも届けたくなる
眺め入る蟠龍庭にうんうんと頷く外人吾より偉い
高野山を越へて修行の小辺路道悟り求めつ本宮に降る
真つ白な雪を見せ度く六歳の長男連れて高野山へと
えりもとの寒さに午前五時覚める空耳のような勤行を聴き
空海の三鈷の松に幸運の落葉を君とさがす秋の日
空海を追体験したるとふ千住博襖絵みごと
日本の美極め世界の美拓かむあつと息のむ滝断崖図

松山 康子（和歌山県橋本市）

橋本 吉信（和歌山県海南市）

岡本炎弥子（大阪府泉佐野市）

篠原 基修（和歌山県岩出市）

中尾 加代（和歌山県和歌山市）

兵野 勉（和歌山県湯浅町）

木下 正博（和歌山県白浜町）

杉本 静子（和歌山県海南市）

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21

金剛峯寺奉納絵滝断崖図和歌山県の誇りとならむ
薄墨の杉木立より新月は明かりくれたり高野のたそがれ
人生を迷いなく来て信仰を頼みに生きる人の群れ見る
天空の大日如来かがよへば高野の水ぞ原爆の日に
霊峰のみほとけごろさやさに散らぬかげさへにごりにしまぬ
町石道狭しと著我の咲き乱れ夕風ほのかにゆらしすぎゆく
雨あがり高野の裾野に日のさして垂るる稲穂がまぶしく光る
大師恋ふ資格無き身と思ひつつ只只願ふ命の浄化
夕べはや高野の山辺木闇濃く消さぬ火の前額づき願ふ
初詣札所に拜す大師さま同じみ姿高野に偲ぶ
菜の花の埋める遍路道を行く高野の春を思い描きつ
杉木立覆う高野の苔冷えて並ぶ墓石に陽の折れて射す
巡る忌へ君恋う心濡らしゆき香華を手向けしばし語らん
バス停に忘れ置きしは傘二本高野の山へ供え物とす
石塔に楨を供えし参道は争いし武士互いに眠る
乗り合はす遍路姿は高野へか一人旅らし会話も接待
上り来て弁天岳の頂に憩へばガイドの柿馳走くる
松若の哀話伝うる高野山女僧しらず歩みてゆけり
禁解かれ観光バスの着く山を彼の石童丸に知らせたし
春の雪踏みつつ運ばる「生身供」黄色の法衣木立に映ゆる
脈脈と続く大師の「生身供」御廟に息衝く声を聞かんか
墓石群めぐるグループ四組の四か国語の響き合いゆく
存在を示すがごとく山桜点々と咲く山里の春
朝霧は高野の峰をとり囲み天空目指す白龍となる

木下 晴生 (京都府京都市)	妻木伊佐子 (和歌山県海南市)	野入 博史 (和歌山県和歌山市)	寒川 靖子 (香川県丸亀市)	松原 寿子 (和歌山県和歌山市)	野村 貞江 (山口県周南市)	川久保早苗 (和歌山県和歌山市)	森田瑠璃子 (和歌山県海南市)	木村いく子 (和歌山県かつらぎ町)	宮崎トシミ (和歌山県海南市)	浦木 逸子 (和歌山県橋本市)
----------------	-----------------	------------------	----------------	------------------	----------------	------------------	-----------------	-------------------	-----------------	-----------------

57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45

青葉闇ぬけて明るき初夏の高野の空がわつと現はる

菅野 耕史（和歌山県岩出市）

よどみなく朝餉にうつる丸ぼうずどうかそのまま幼子のまま

高知るや天の御影に赤が散る色あせはせぬ巨門のよう

雪の日に凍豆腐を宿坊で食ふその人の桃色の頬

玉鉾の石道駆けて遊ぶちごなくも笑うも仏が見守る

奥の院の苔むす墓に歳晩の雪の穏しく満たしてゆけり

真夜覚めて高野の月を仰ぎみる大師もご覧かこの青き月

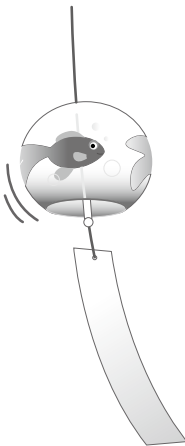
脈々と高野の杉は根を交はし大師のおはす御園を守る

故郷の墓じまいせしその足で高野に参る春雨のなか

アスファルト破りて出でしツクシンボ待ちかねしかり新元号を

赤衣を纏い隊列読経する高野の僧の頭光れり

朝まだき目深に桧笠かぶり高野聖の山下りゆく



吉田 美子（大阪府茨木市）

上田 康彦（千葉県四街道市）

松田 容典（和歌山県和歌山市）

風鈴まつり〔短歌・俳句会〕募集

短冊に短歌や俳句が書かれた風鈴が、春日神社拝殿一面に吊るされ、短歌・俳句などの芸能上達祈願や色々な願いごとが祈願されるまつりです。

〔応募要項〕

- 応募締切 令和元年八月五日頃迄にお願いします。
- 応募方法 風鈴の短冊に作品と氏名を書き事務局宛に風鈴と共に郵送下さい。
- 展示期間 八月一日～八月十五日
- 展示場所 春日神社拝殿

今年の夏も多くのの方々のご参加を賜わり度く、皆々様のご出品を心よりお待ちしております。

出品者全員に短歌・俳句作品集「風鈴まつり」を贈呈。

事務局 〒六四二一〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七一

春日神社事務所（三上）宛

電話 〇七三一四八三一七五四七

第二十二回

春日万葉の森歌垣（短歌・俳句）大会募集

大会要項

- 募集内容 四季を通じた作品で内容は自由。（未発表のもの）
- 応募規定 用紙（A4）右半分に作品
二組（二首又は二句）＝三組まで可
左半分に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年令、性別、電話番号を楷書で記入。
令和二年二月～四月末日（当日消印有効）
二首又は二句（一組）一、〇〇〇円
現金書留または郵便定額小為替で作品とともに同封。（切手不可）
- 応募先 〒六四二一〇〇二二
和歌山県海南市大野中五七七一
（春日神社事務所内 三上 宛）
「春日万葉の森歌垣大会」事務局まで。
☎〇七三一四八三一七五四七
- 賞 大賞（短歌俳句各一名）：賞状＋楯
優秀賞（短歌俳句各三名）：賞状＋楯
人磨賞・一入子賞：賞状
（作品集「神奈備」一冊を贈呈 全作品集収録）
（短歌の部） 石井 和子、井谷まきみち、唐津麻貴子
（俳句の部） 笠野 千居、小阪 南枝、鳥井 保和
（五十音順）
- 発 表 右記の賞とは別に選者賞有り
風鈴まつり（八月一日～十五日）にて発表。受賞者に通知します。応募者全員に作品集「神奈備」を贈呈します。

第十五回

「熊野・高野」短歌・俳句大会作品募集

●募集内容

熊野の部（熊野古道関連） 〓六日まで。

高野の部（高野山、高野街道関連） 〓六日まで。

（合計十二点まで。未発表作品。楷書で丁寧にな。）

原稿用紙または便箋に住所・氏名、電話番号を明記。

二点（一組）千円（作品に同封。切手不可。）

令和二年三月〓五末日（当日消印有効）

千六四二一〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七一一（春日神社内）

「熊野・高野」短歌・俳句大会係

☎〇七三一四八三七五四七

●選者

（短歌の部） 永本 光・杉谷睦生

（俳句の部） 桑島啓司・木下敦子

●賞

【熊野の部】 神社本庁統理賞 〓一名

和歌山県神社庁長賞 〓一名

熊野本宮大社賞 〓各一名

熊野速玉大社賞 〓各一名

熊野那智大社賞 〓各一名

松代王子賞 〓各若干名

神社本庁統理賞 〓一名

【高野の部】 和歌山県神社庁長賞 〓一名

高野山金剛峯寺賞 〓各一名

丹生都比売神社賞 〓各一名

丹生官省符神社賞 〓各一名

金剛院賞 〓各若干名

●発表

風鈴まつり（八月一日〓十五日）にて発表。受賞

者に通知します。応募者全員に作品集「やまなみ

参詣」を贈呈します。（表彰式は八月一日）

※熊野の部と高野の部を同じ用紙に書かないようにお願いします。

おかげ様で今回もたくさんの方々のご協力を得

て第十四回目の短歌・俳句作品集をここに送り出

すことが出来、心より皆様に御礼を申し上げます。

また、来年ぜひ、皆さんにお誘いをいただき多く

の方々にご参加いただけますようお願い致します。

この作品集は、東京の国立国会図書館・日本現

代詩歌文学館並びに和歌山県立図書館、同紀南分

館に納本されます。

また、全作品は春日神社のホームページでもご

覧いただけます。

<http://kasuga-kainan2.com/>



令和元年八月一日発行

海南古道まつり

第十四回「熊野・高野」短歌・俳句大会

【事務局】 千六四二一〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七一一

春日神社社務所内（三上）

電話〇七三（四八三）七五四七

平安衣装を 着てみませんか!

春日神社で平安衣装が無料で貸し出されます。

平安衣装を身にまとい、当時に思いをはせながら散策したり、
写真撮影などをお楽しみください。

(七五三詣・十三参りにもご利用できます。)

とき
11/2土・3日

午後**1時30分**～**4時**まで(雨天中止)

ところ **春日神社**

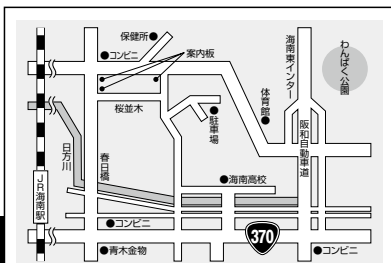
- お申し込み不要
- 参加費無料
- 男女(大人用・子ども用有)

カメラで
写そう!!

※ご都合の良い時間に皆様お誘い合わせの上お越しください。

※カメラは各自でご持参ください。

※雨天の場合は中止とさせていただきます。



春日神社へは
●阪和自動車道・海南東インター降東へ3分
●JR海南駅徒歩15分
●JR海南駅オレンジバス「大野中」徒歩5分

海南古道まつり



七五三詣・十三参り
にもご利用できます。

家族全員で平安衣装を身にまとい
七五三詣・十三参り。



十三参りとは…

13才の年頃は、身体的にも精神的にも
変化する大人になる入口です。めでたい
この時のお祝いと無事に成長するよう
にと祈るまつりです。

お問い合わせ **春日神社**

海南市大野中577-1

TEL.073-483-7547